

情熱 責任
真摯 覚悟

埼玉県議会議員

宇田川 ゆきお

県政報告
平成31年 1月発行 新春号 Vol.10

発行:埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所 〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055 FAX.048-934-7099

1期4年の活動をご報告

1年生議員らしさを活かし、 大胆で先進的な提案を行う!

「八潮市」の立場を主張するため、
県議会で精力的に活動して参りました。

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、私・宇田川ゆきおの政治活動にご支援・ご理解を賜りまして、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

さて、2015年4月に皆様の温かいご支援で、県議会に送り出していただいてから、お陰様で4年目を迎えようとしています。振り返れば、県議会での初顔合わせの5月19日、八潮市選出の唯一の県議会議員として、八潮市の皆さまの声をいかに県政に伝えるかということ、そして埼玉県63市町村の中で、いかに八潮市を県内外でアピールしていくという責任の重さと、それを成し遂げるのだという、気負いで一杯であったことを思い出します。 <2面に続く>

宇田川ゆきおが思いを語ります。

埼玉県議会議員

宇田川 ゆきお



宇田川ゆきお・経歴 ●昭和53年八潮市八條生まれ
●八潮市立八條中学校卒業 ●浦和実業学園高等学校卒業 ●東京コミュニケーションアート専門学校卒業
～音楽の道へ ●八潮市議会議員選挙にて初当選 ●

専修大学法学部中退 ●平成21年、八潮市議会議員選挙にて二期目当選 ●平成27年、埼玉県議会議員選挙にて初当選 ●県議会・文教副委員長、自然再生・循環社会対策特別委員、決算特別委員 ●所属団体・八

潮市商工会青年部、八潮市消防団、八條有志クラブ他
宇田川ゆきお公式WebSite
www.udagawayukio.com/



宇田川ゆきお 1期4年の活動を振り返って…

1年生議員らしさを活かし、 大胆で先進的な提案を行いました！

自民党県議団では議員提案条例(提案数全国1位)やリーサス(地域経済分析システム)、医療懇話会、私学振興懇話会等の勉強会が数多くあり、これらを通じ、視野を広げることが出来ました。また、先輩方からご指導をいただき、八潮に対しての予算処置等を学びました。同期県議とも定期的に政策勉強会も行い、様々な刺激を受けて現在に至っています。

このように充実した日々と活動の場を
を与えて下さった地元の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今、八潮をより発展させていきたいと強く思っています。引き続き、精一杯、力を尽くして参ります。

【昨年12月定例会で一般質問。1期目の集大成として、提言を行う。】

さて、12月12日の平成30年12月定例会で、県政に対しての一般質問を行いました。そこで私は①予防・医療・介護・金融システムの連携について(福祉部長)、②がんゲノム医療について(病院事業管理者)、③産後ケアについて(保健医療部長)、④職員の交流について(総務部長)、⑤スタートアップ企業について(産業労働部長)、⑥都市農地貸借法と生産緑地法を踏まえた都市農地の活用について(農林部長)、⑦県内の内水対策について(都市整備部長)を各担当部長に質問、提言を行いました。(詳細はホームページなどをご覧ください)

この質問の中で、進行する超少子高齢

社会の対応に、新しい提言を行いました。それが1番目に取り上げた、「予防・医療・介護と金融システムの連携」です。増大する社会保障費は、個人と社会に大きな負担となっています。

その負担を少しでも和らげるため、私は予防、医療、介護にIoTやAIの活用に加え金融システムを連携するべきと考えています。

IoTやAIを活用し、自分自身の健康状態を管理し、さらにビックデータ等を取り入れて個々にあった予防健康プログラムを提供できるシステムを導入すべきです。

また、子供の頃から予防を教育で根付かせることで、健康寿命を伸ばし、社会の活力を維持、増進させ、どのような栄養素を補えば病気に強く、体力づくりにもつながるのか、そのような教育が必要です。

そして、将来、安心して暮らしていくためには、経済的基盤が必要です。老後、経済的に困窮することなく個人と社会を維持していくためには、自分にあったライフプランをもつことが重要です。介護が必要となる以前の青少年の若い時期から金融リテラシー教育を行うことで、金融や経済の必要性を理解し、しっかりとしたライフプランを持てるようにすべきです。

社会保障でどれだけの事が賄え、現在の資産で対応ができるのか、医療や介護が必要となったときの経済的な問題が生じる前に、個々において予防(備え)をしておくことの重要性を子供の頃から意識をもってもらいたいと考えています。これこ



平成30年12月定例会にて



第27回やしお市民まつりにて挨拶

そが、予防、医療、介護と金融システムの連携という新しい視点での提言です。これに対しては、答弁に立った福祉部長、病院事業管理者、保健医療部長からは前向きな答弁を引き出すことが出来、手応えを感じることが出来ました。今後ともこのような提言を積極的に行っていきたいと考えています。

【若さと経験を活かし、新政策に果敢に挑戦します。】

八潮市に目を転じれば、八潮市の20年、30年先を見据え、さらに快適で住みやすい街に向けて、取り組む課題はまだあります。安全・安心のために、防災・治水への備えを進め、地域経済の活性化と利便性を高めるためには、外環道のパーキングエリア・スマートインター設置、地下鉄8号線の延伸、つくばエクスプレスの東京駅への延伸、企業誘致や道の駅設置が必要です。また、産婦人科誘致や教育環境整備など、医療と教育の充実も求められます。さらに私のライフワークの一つでもある子育て支援も八潮の未来にはもっと力を入れていく決意です。そのために今まで以上に、地元の皆さまの声をお聞きし、政策を作り、一層の研鑽を積んでまいります。本年が皆様にとりまして、昨年以上に素晴らしいことを祈念いたしますとともに引き続きの叱咤激励をお願いいたします。

埼玉県議会議員

宇田川幸夫



子育てから農業まで幅広い分野で質問、提案



防犯のまちづくり街頭活動



埼玉県議会議員・宇田川ゆきお

八潮市の未来のために！ 実現して参りました。

皆様の声、八潮の夢をかたちに！
宇田川ゆきお県議の県議会議員1期の
活動の主な成果と進捗状況をご報告します。

【ご存知ですか？ 埼玉版ネウボラ…】

■埼玉県版ネウボラを推進に尽力。

ネウボラとは「アドバイスする場所」という意味のフィンランド語で、フィンランドで制度化されている子育て支援施設のこと。妊娠、出産から就学前までの育児を切れ目なく継続的に支援するのが特長です。

宇田川ゆきおは、このネウボラのように、妊娠期から産後ケア、そして子育て期のワンストップで切れ目のない相談支援を行う、「埼玉版ネウボラ」を提言（H27.9の定例会、H28.2予算特別委員会）しました。

埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略では、子育て世代包括支援センター、通称「埼玉版ネウボラ」を国の目標から1年前倒して平成31年度末までに、県内全市町村で設置する計画を策定。県は、地域の特色を生かし各地域の実情に応じた市町村の取組を支援します。

宇田川ゆきおは、さらに、結婚から子供をもちたい人の希望を叶えるとともに、安心して子育てできるための支援を提言し、県は、結婚から子育てに対する切れ目のない支援を実施することを表明しました。

これにより平成29年度に約2億8000万円、平成30年度には約3億5000万円の予算を確保いたしました。

【「受け入れ枠」を拡大しました】

■放課後児童クラブの受け入れ枠の拡大へ向けて

安心して子供を産み、子育てをしながら、無理なく、仕事を続けられる社会をつくるために、小学校入学後の子供を預かる放課後児童クラブの質を高め充実させることは必要不可欠です。宇田川ゆきおは、放課後児童クラブがより利用しやすいものとするために、質の向上（H27.9定例会）、保育所と学童保育の連携の促進と、放課後児童クラブの受け入れ枠拡大（H28.2定例会）を提



都連幹事長 高島都議と…

言しました。

県からは、実施主体である市町村が計画的にクラブ整備を進められるように整備費の補助と行うとともに、

市町村と協力して放課後児童クラブの必要な受け入れ枠の確保を図るとの回答を引き出しました。

【レスパイトケアを広める！】

■レスパイトケアを提言、ハンドブック作成も

重症心身障害児者は、常時介護や医療的ケアが必要な方が多く、自宅で介護を行うご家族の負担は大きいものがあります。宇田川ゆきおは、そのご家族の負担を少しでも和らげ、休息をとることができるような支援、レスパイトケア（一時的介護代替サービス）の利用促進を提言（H28.2予算特別委員会）。これに沿ってハンドブックが作成されました。

【授業料の助成を拡大。】

■私学助成として、最大で720万円未満の世帯までの授業料の実質無料化を拡大。

子どもたちの学びたいという意欲を尊重し、学校選択の自由を確保しつつ、子育て支援世帯の経済的負担の軽減のため、宇田川ゆきおは全国トップクラスの私学助成を自民党県議団の一員として推進。新規に、私立高校や大学生等3人以上を抱える多子世帯については、年収720万円未満の世帯までの授業料補助の拡大事業に尽力しました。

■国との連携により今後は更に上乗せできる財源を確保、教育に投資をする。

目まぐるしく変わる社会には対応力を備えた人材の育成が何より大切です。百年の大計も優れた人材の育成からです。宇田川ゆきおは、国との連携により財源確保を図り、教育環境の更なる充実へ向けて全力を尽くします。

【IT時代の子供たちのために。】

■プログラミング教育

2020年度から実施される新学習指導要領で、プログラミング教育が必修化されます。宇田川ゆきおは、情報や人材の不足で学校によって取り組みに差が出ないように、また、より先進的で質の高いプログラミング教育を実施するために、県内の複数の市町村で大学や研究所などと連携して、モデル校を指定するなど、実務レベルの教育の推進を提言（H29.6定例会）しました。これにより、県内で小学校8校、中学校1校をモデル校としたプログラミング教育の実践研究がスタートしています。

〈4面に続く〉

〈3面からの続き〉

【「20年経過」を新しく！

■八潮南高等学校大規模改修

宇田川ゆきおは、地元選出県議として予算獲得に力を尽くしています。生徒たちが安心して、先進的な学習を行えるように、また、災害時の拠点としても使用できるように、建設後20年を経過した八潮南高等学校の大規模改修に約2億円の予算が計上されました。

【より安心な街へスタート！

■八潮警察署の設置に向けて、警察官増員

八潮市は、八潮駅周辺を中心に人口が増加し安全で安心した暮らしに関心が高まっています。また、都県境という地理的に要所であり、東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、多様化する犯罪を防ぎ対応するために、八潮警察署の設置が重要と考えています。

八潮に警察署をつくるには、まずは警察官の増員が必要です。そこで、宇田川ゆきおは、警察官の増員を提言(H27.9定例会)し、結果、増員の内示がされました。これは八潮市警察署設置の第一歩です。引き続き、実現に向けて、さらに努力を続けて参ります。

【イライラ解消のために

■大曽根交番の改修・大曽根交差点の整備(右折レーンの設置)

宇田川ゆきおの要望(H29.6定例会)とその後のねばりづよい働きかけで、平成29年予算で大曽根交番の改修が予算化。また、大曽根交差点に右折レーンも設置され、交通渋滞の緩和が期待されます。

■柳之宮橋の架換えを推進。

宇田川ゆきおは、県に一般質問や要望を繰り返し、柳之宮橋の架換の進捗状況の確認と早期完成を主張。柳之宮橋を含む綾瀬川西側は県が、東側は八潮市が施行する西袋上馬場土地



東埼玉道路延伸に向けた国への要望

川の改修計画に合わせた架換えが必要であるため、橋の高さが2メートル上がる計画となっています。

そのために、

周辺の土地利用や住環境への影響をできるだけ小さくするような構造の検討や、工期短縮について詳細な設計を行い、河川管理者である国土交通省との協議を進め、八潮市と連携し速やかな着工を目指しています。

【川に親しむまちへ。

■葛西用水親水化を推進。

埼玉県は、市町村の地域振興の取組と連携した水辺空間の整備・拡充を行う「川の国埼玉はつらつプロジェクト」を実施しています。宇田川ゆきおは、市と一体となった要望活動を行い、県議会でも積極的に提案(H28.12定例会)し、八潮市では葛西用水の親水化が決定。事業期間は平成29年度から平成32年度を予定。事業内容は、親水互換整備は0.78km、安全施設整備が2.82km。これにより水辺のにぎわいが創出され、より川に親しみのあるまちを目指します。

【未来の活力をつくる

■東埼玉道路の整備、外環道(東京外かく環状道路)パーキングエリア、スマートインターチェンジの設置へ

宇田川ゆきおは、八潮市の活性化のために、より利便性の高い道路網整備や公共施設整備を推進しています。「埼玉県議会東埼玉道路及び周辺整備建設促進議員連盟」の設立に尽力し、高規格道路の早期着工を要綱に明記しました。今後はこの流れを加速させるよう、さらに働きかけを強めます。また、地域のポテンシャルを高めるため、東埼玉道路の商業・産業ベルトに、地域未来投資促進法によるAI、IoTインフラ通信網の整備を推進しています。

【さらに住みやすいまちへ

■八潮南部西地区の区画整理事業に約65億5000万円

宇田川ゆきおは、八潮市南部西地区の区画整理事業に約65億5,000万円の事業費を獲得。今後、区画道路の築造工事、宅地の整地工事、調整池の掘削工事、物件移転補償、保留地の販売などに使用されます。また、地域活動拠点の利便性向上のため地区公民館(2館)に県費助成をしました。



八潮市リサイクルフェア